

## 平成25年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成26年3月

下関市(山口県)

○計画期間:平成21年12月～平成27年3月(平成26年3月)

### I. 中心市街地全体に係る評価

#### 1. 平成25年度終了時点(平成26年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市中心市街地活性化基本計画は、平成25年度、新たに7事業を追加し、賑わい創出に向けた取り組みを進めている。認定基本計画の84事業(再掲載8事業含む)の進捗状況は、事業完了が23事業、実施中が53事業となっている。

本市中心市街地活性化基本計画の主要事業である「下関駅にぎわいプロジェクト」については、平成26年3月にJR下関駅ビル「リピエ」がオープンし、同年4月に同ビル3階に「ふくふくこども館」が、同年7月にシネマコンプレックス等がオープンする予定であり、駅周辺地区が本市の玄関口並びに拠点施設として、今後にぎわい創出に大きく寄与するものと考えている。あわせて、民間のまちづくり団体(エリアマネジメント組織)の設立に向け協議がおこなわれており、基幹事業(ハード整備)にエリアマネジメント活動(ソフト事業)を一体的に組み合わせ、地域参加型の持続可能なまちづくりの実現と定着をはかるなど、民間主導のまちづくりの雰囲気生まれつつある。

「あるかぼーと開発事業」については、あるかぼーと東側地区(賑わい創出ゾーン)、西側地区(くつろぎ交流ゾーン)開発事業が平成25年度に事業完了し、あるかぼーと国道側地区(賑わい・交流支援ゾーン)では、平成26年度に飲食店舗の誘致が予定されており、あるかぼーと地区全体の一体的な開発計画により、民間の投資を促し、観光客が増えるといった好循環生まれつつある。

一方、空き店舗への新規出店に対する補助をおこなっているものの、商店街の空き店舗については依然として解消おらず、今後の課題であると考えている。

#### 2. 平成25年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

本計画の作成主体である下関市と協議会で月1回の定例会議(タウンマネジメント会議)を開催するとともに、本計画の交流核の一つである下関駅周辺地区において、部会、ワーキンググループを設置し、事業内容の検討を行うなど、官民が密接に連携しながら取り組むことができた。民間のまちづくり団体(エリアマネジメント組織)である「エキマチ下関推進協議会」が平成26年度早々に設立予定であり、下関駅周辺地区の活性化への機運がさらに高まるなど、基本計画は概ね順調に推移していると評価する。今後は、もうひとつの交流核である唐戸周辺地区においても部会等を設置し、事業内容の検討等をおこなう。

## II. 目標毎のフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
歩きたくなる、回遊したくなる街	休日歩行者等通行量	64,373 人 (H20)	68,400 人 (H26)	90,203 人 (H25)	①	①
多彩な魅力が備わり、ゆっくり訪れたい街	観光客入込客数	3,184 千人 (H20)	3,371 千人 (H26)	3,107 千人 (H25)	①	①
愛着を持って、いきいきと暮らせる街	市民サービス施設利用者数	287,669 人	481,000 人 (H26)	1,031,886 人 (H25)	①	①

#### <取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

### 2. 目標達成見通しの理由

休日歩行者等通行量及び市民サービス施設利用者数については、最新値が目標値を大幅に上回っており、数値目標の達成は可能であると判断される。観光客入込客数については、最新値が基準値・目標値を下回っているが、下関駅にぎわいプロジェクトやあるかぼーと開発事業などの事業が平成 26 年秋頃には完了し、その波及効果も大きく見込まれることから、数値目標の達成は可能と判断される。

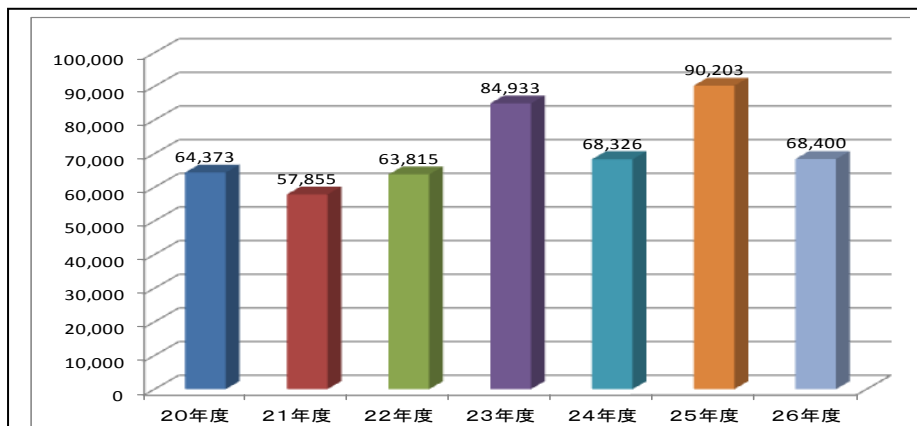
### 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

見通しに変更はない。

#### 4. 目標指標毎のフォローアップ結果「歩きたくなる、回遊したくなる街」

「休日歩行者等通行量」 ※目標設定の考え方基本計画 P69～P72 参照

##### ●調査結果の推移



年	(人/日)
H20	64,373 (基準年値)
H21	57,855
H22	63,815
H23	84,933
H24	68,326
H25	90,203
H26	68,400 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行量調査（毎年9月実施）

※調査月：平成25年9月

※調査主体：下関市

※調査対象：歩行者及び自転車通行者、休日23地点

##### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

###### ①. 下関駅にぎわいプロジェクト（下関市・民間）

事業完了時期	【未】平成26年度
事業概要	JR下関駅周辺について、開発ビル、駅前ビル、駅前広場、駐車・駐輪場、シネマコンプレックスの整備により都市的魅力と交通結末機能の強化を図り、中心市街地の一極を担う都市拠点を形成する。
事業効果及び進捗状況	平成25年9月に実施した、本事業の歩行者等通行量調査(休日)では、19,213人(平成20年度比8.0%減、目標対比12.4%減)であった。平成26年には、本事業が完了するため、効果が発現するのは平成26年度以降となり、完成後は1,050人/日(休日)の歩行者等通行量の増加を見込んでいる。 地域参加型の持続可能なまちづくりの実現・定着のため、基幹事業(ハード整備)にエリアマネジメント活動(ソフト事業)を一体的に組み合わせ、駅周辺地区の活性化を図っていく。

###### ②. あるかぼーと民間開発事業（民間）

事業完了時期	【未】平成26年度
事業概要	アミューズメント施設などの「にぎわい創出ゾーン」、芝生公園を整備する「くつろぎ交流ゾーン」、飲食店を誘致する「にぎわい・交流支援ゾーン」の3ゾーンに分け唐戸地区から生まれるにぎわいを下関駅前地区へ波及させることで中心市街地全体への活性化を図る。
事業効果及び進捗状況	平成25年9月に実施した、本事業の歩行者等通行量調査(休日)では、27,435人(平成20年度比155.1%増、目標対比110.9%増)であった。 大幅な増加要因としては、あるかぼーと開発事業において、「くつろぎ交

	<p>流ゾーン」に芝生広場が完成し、「にぎわい・交流支援ゾーン」にスターバックスコーヒーがオープンし、「にぎわい創出ゾーン」にアミューズメント施設「はい！からっと横丁」と飲食施設がオープンしたことにより、多くの来場者があったことが増加に影響を与えた要因であると思料される。</p> <p>平成 26 年度には、「にぎわい・交流支援ゾーン」に飲食施設がオープンする予定であり、事業完了後は 2,256 人／日(休日)の目標を上回る歩行者等通行量の増加を見込んでいる。</p>
③ 国際観光対策事業（下関市）	
事業完了時期	【済】平成23年度
事業概要	下関港国際ターミナルの利用者拡大に向けた施設整備、並びに中心市街地への誘導方策の実施等をおこなった。
事業効果及び進捗状況	平成 25 年 9 月に実施した、本事業の歩行者等通行量調査(休日)では、200 人(平成 20 年度比 40.8%減、目標対比 49.1%減)であった。韓流ブームの効果等もあり、平成 23 年度までは増加傾向にあり、目標数値を上回ったこともあったが、ここ最近では、中国・韓国からの観光客等の減少から、乗船客も減少しており、このことが歩行者等通行量の減少につながったと考えている。
④ 国際通り整備事業（下関市・民間）	
事業完了時期	【済】平成25年度
事業概要	グリーンモール商店街の活性化のためテーマ性に特化した拠点施設の整備、ハングル看板の設置、韓国カラーの演出、イベント事業等をおこない、下関駅周辺地区の賑わい創出を図った。
事業効果及び進捗状況	平成 25 年 9 月に実施した、本事業の歩行者等通行量調査(休日)では、6,656 人(平成 20 年度比 2.0%減、目標対比 4.8%減)であった。減少幅が縮小しており、下関駅にぎわいプロジェクトとの連携事業の実施などの効果によるものと考えている。
⑤ ふくふくサポート運営事業（ボランティア・NPO 推進事業）（下関市・民間）	
事業完了時期	【実施中】平成 19 年度～
事業概要	平成19年5月に開館した「しものせき市民活動センター(ふくふくサポート)」の運営(会議室・多目的ホール等の市民への提供、市民活動情報の収集・発信、市民活動に関する講座等の実施、調査・研究等)
事業効果及び進捗状況	平成 25 年 9 月に実施した、本事業の歩行者等通行量調査(休日)では、4,045 人(平成 20 年度比 9.8%増、目標対比 9.5%増)であった。これは、ふくふくサポートセンターの利用者増加に伴う結果であると考えている。
⑥ 社会教育複合施設整備事業 （細江町三丁目地区社会教育複合施設（仮称）整備運営事業）（下関市・民間）	
事業完了時期	【実施中】平成 19 年度～
事業概要	施設整備と、民間事業者による施設運営、維持管理（中央図書館、生涯学習施設）業務。同施設は平成22年2月に完成した。

事業効果及び進捗状況	平成25年9月に実施した、本事業の歩行者等通行量調査(休日)では、2,408人(平成20年度比9.2%減、目標対比11.6%減)であった。同施設の利用者数は増加していることから、車による来場者数が増加しているため、歩行者等通行量が減少しているものと考えている。
------------	--

⑦ 唐戸ふれあい商店街プロジェクト(民間)

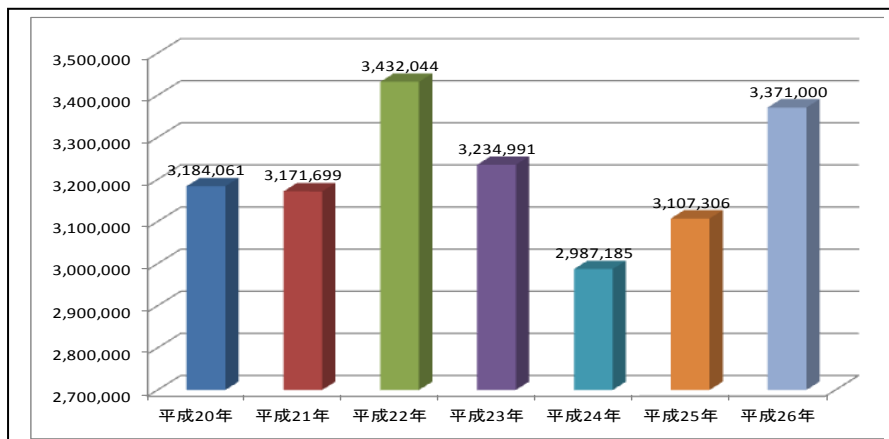
事業完了時期	【済】平成25年度
事業概要	金子みすゞをテーマに、空き店舗等を活用した商店街の活性化事業。平成21年～22年度において、みすゞカフェの整備、シャッターアート、看板等の作成をおこない、その後100円商店街等のイベントを実施した。
事業効果及び進捗状況	平成25年9月に実施した、本事業の歩行者等通行量調査(休日)では、8,294人(平成20年度比76.7%増、目標対比62.7%増)であった。これは、あるかぼーと民間開発事業がすすむウォーターフロント地区の観光客増加に伴い、観光客が唐戸商店街に回遊したものと考えている。

●目標達成の見通し及び今後の対策

- ・下関駅周辺の歩行者等通行量は、目標値に対して減少しているが、「下関駅にぎわいプロジェクト」が平成26年に完了することから、目標達成は十分に可能であると思われる。
- ・あるかぼーと地区の歩行者等通行量は、あるかぼーと開発事業の実施に伴い、目標値に対して大幅に増加しており、目標達成は十分に可能であると思われる。
- ・下関港国際ターミナル周辺の歩行者等通行量は、関釜フェリーを利用する観光客が減少しているため、目標値に対して減少しているが、同ターミナル内に周辺施設へ誘導する施設整備をおこなうなど、観光客の増加に努め、目標達成を図る。
- ・グリーンモール商店街周辺の歩行者等通行量は、目標値に対して減少しているが、減少幅は年々小さくなっており、下関駅からグリーンモール商店街への回遊を高めるソフト事業を実施することにより、目標達成を図る。
- ・しものせき市民活動センター(ふくふくサポート)周辺の歩行者等通行量は、市民の利用者が増加しており、目標値に対して増加しており、目標達成は十分可能であると思われる。
- ・社会教育複合施設(ドリームシップ)の利用者数は増加しているが、車での来場者の増加等により、歩行者等通行量は減少している。今後は、中活計画掲載事業の完了に伴い、中活エリア内の回遊性が高まることから、目標達成が図れると考えている。
- ・唐戸商店街周辺の歩行者等通行量は、あるかぼーと開発事業などによりウォーターフロント地区における歩行者等通行量が増加したことに伴い、唐戸商店街周辺への回遊性が高まったため、目標値に対して増加しており、目標達成は十分に可能であると思われる。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果「多彩な魅力が備わり、ゆっくり訪れたい街」  
「観光客入込客数」 ※目標設定の考え方基本計画 P61～P69 参照

●調査結果の推移



年	(延人数)
H20	3,184,061 (基準年値)
H21	3,171,699
H22	3,432,044
H23	3,234,991
H24	2,987,185
H25	3,107,306
H26	3,371,000 (目標値)

※調査方法：観光スポットやイベント等への観光客の単純合計人数（延人数）

※調査月：毎年12月（暦年）

※調査主体：下関市

※調査対象：下関駅地区、唐戸地区

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. あるかぼーと開発事業（民間）

事業完了時期	【未】平成26年度
事業概要	あるかぼーと地区を、アミューズメント施設などを整備する「賑わい創出のゾーン」、飲食店を誘致する「賑わい・交流支援ゾーン」、ふ頭用地を芝生化する「くつろぎ交流のゾーン」の3ゾーンを一体的に開発を行い、唐戸地区から生まれる賑わいを下関駅前地区へ波及させることで中心市街地全体への活性化を図る。
事業効果及び進捗状況	平成25年の観光客入込客数は、3,107,306人(平成20年比2.4%減)であった。平成22年は、下関市立しものせき水族館海響館のペンギン村がオープンした効果により増加したが、その後減少傾向にあった。しかし、アミューズメント施設がオープンするなど、あるかぼーと開発事業が動き出したことにより、平成25年には増加に転じた。平成26年には、あるかぼーと開発事業が完成し、観光客入り込み客数のさらなる増加を見込んでいる。

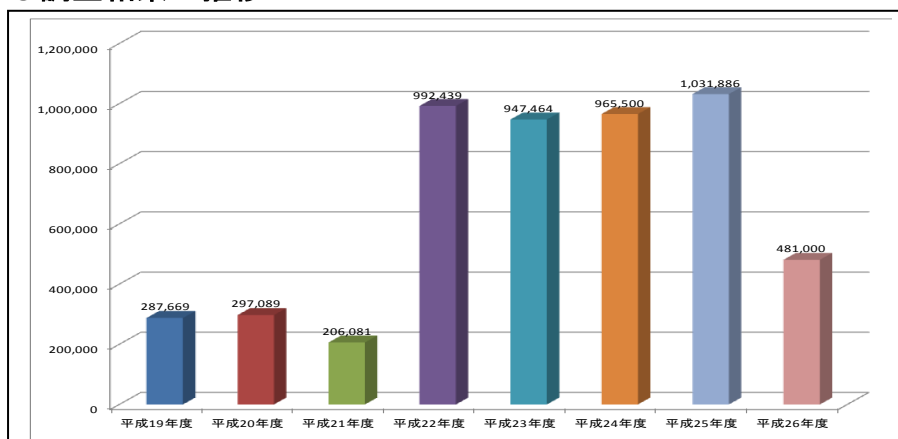
●目標達成の見通し及び今後の対策

- 観光客数の大半を占める唐戸地区の観光客数は、平成25年3,009,223人（平成20年比1.7%減）となり、平成24年と比較して増加傾向に転じている。これは、アミューズメント施設等のオープン効果によるものであり、今後も連携ソフト事業の実施等により、目標達成は十分に可能であると思われる。また、下関駅地区の観光客数は、平成25年98,083人（平成20年比19.0%減）で減少傾向にあるが、「下関駅にぎわいプロジェクト」において、新たな施設が開業することから、今後の増加も期待できる。

#### 4. 目標指標毎のフォローアップ結果「愛着を持っていきいきと暮らせる街」

「市民サービス施設利用者数」 ※目標設定の考え方基本計画 P73～P77 参照

##### ●調査結果の推移



年	(利用者人数)
H19	287,669 (基準年値)
H20	297,089
H21	206,081
H22	992,439
H23	947,464
H24	965,500
H25	1,031,886
H26	481,000 (目標値)

※調査方法：複数施設の利用者数の合計値

※調査月：平成26年3月

※調査主体：下関市

※調査対象：下関市民会館、社会教育複合施設、ふくふくサポート、

なお、次世代育成支援拠点施設はH26.4オープンのため、今回は対象外。(実績なし。)

##### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

###### ①. 下関駅にぎわいプロジェクト（下関市・民間）

事業完了時期	【未】平成26年度
事業概要	下関駅にぎわいプロジェクト地区内に建設される民間開発ビル3階部分に「次世代を担う子どもたちを多世代で育む」を基本コンセプトとして、「子育て支援機能」を中心に「世代間交流機能」、「市民活動機能」を有する公益施設(次世代育成支援拠点施設)を整備し、中心市街地内での市民活動によるにぎわいの醸成を図る。
事業効果及び進捗状況	平成26年に次世代育成支援拠点施設「ふくふく子ども館」もオープンすることから、60,000人/年を上回る利用者数の増加を見込んでいる。

###### ②. 下関市民会館利用促進事業（下関市・民間）

事業完了時期	【実施中】平成21年度～
事業概要	芸術文化活動の推進(使用料の減免、事業後援)及び環境の整備・充実(老朽化した施設の整備)を図る。
事業効果及び進捗状況	平成25年の市民会館利用者数は167,473人(平成19年度比0.1%減、目標対比11.6%増)であった。「下関駅賑わいプロジェクト」の完了に伴い、駅周辺地区の利便性が高まることから、利用者数も増えることが予想され、150,000人/年を上回る利用者数の増加を見込んでいる。

###### ③. 社会教育複合施設整備事業

(細江町三丁目地区社会教育複合施設(仮称)整備運営事業)(下関市・民間)

事業完了時期	【実施中】平成19年度～
事業概要	施設整備と、民間事業者による施設運営、維持管理(中央図書館、生

	涯学習施設)業務。同施設は平成 22 年 2 月に完成した。
事業効果及び進捗状況	平成 25 年の社会教育複合施設(ドリームシップ)利用者数は 836,174 人(平成 19 年度比 713.2%増、目標対比 234.5%増)であった。平成 22 年オープンから利用者数は増加しており、250,000 人/年を上回る利用者数の増加を見込んでいる。

④ ふくふくサポート運営事業(ボランティア・NPO 推進事業)(下関市・民間)

事業完了時期	【実施中】平成 19 年度～
事業概要	平成 19 年 5 月に開館した「しものせき市民活動センター(ふくふくサポート)」の運営(会議室・多目的ホール等の市民への提供、市民活動情報の収集・発信、市民活動に関する講座等の実施、調査・研究等)
事業効果及び進捗状況	平成 25 年の市民サービス施設利用者数は 28,239 人(平成 19 年度比 63.3%増、目標対比 34.5%増)であった。「下関駅賑わいプロジェクト」の完了に伴い、駅周辺地区の利便性が高まることから、21,000 人/年を上回る利用者数の増加を見込んでいる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

- ・社会教育複合施設完成の影響により、目標値は達成しているが、「下関駅にぎわいプロジェクト」において、平成 26 年に次世代育成支援拠点施設「ふくふく子ども館」も整備されことから、さらなる数値の伸びが期待できる。